

環境情報に関する国民意識の日欧比較

- 我が国及び EU でそれぞれ行われた調査を活用して -

岩田 元一

日本大学大学院総合社会情報研究科

A Comparison between Japanese and European Public Consciousness about Environmental Information

IWATA Motokazu

Nihon University, Graduate School of Social and Cultural Studies

Using the results of surveys on the environment conducted by Japanese Ministry of the Environment and EU, public consciousness about the environmental information in Japan was compared with that in Europe. In both regions most preferred media as main source of information about the environment are television and newspaper. Although levels of trust of these media are highest in Japan, European citizens trust environmental protection associations and scientists most.

1. 目的

国民や企業の環境問題への取組を積極的かつ効果的なものとするための基盤として、環境に関わる情報（環境情報）が豊富に存在し、それが十分に活用し得る状態となっていることが重要である。このためには、環境情報が効率的・効果的に収集・提供される必要があるが、情報の活用を促すという点では、それらの情報が入手しやすい仕組みになっていることや情報自体が分かりやすい形（専門的な内容を分かりやすく表現し直す、数字の羅列だけではなく地図上に示すなど。）になっていることが求められる。

本稿では、環境情報の提供のあり方に関する検討を行う上での基礎的な知見を得るため、環境省が行ったアンケート調査等に基づいて国民が環境情報についてどのような意識を持っているのかを確認する。その際、我が国の現状をよりの確に評価するため、欧州連合（EU）が加盟国の国民を対象に実施した環境に関する世論調査に基づき、環境問題に関して一般に先導的な取組がなされている欧州の状況と我が国との比較を試みることにする。

両調査はそれぞれ独立して行われたものであり、質問項目も同じではないが、類似の質問項目に対す

る回答の状況から、我が国と EU のそれぞれの特徴（その結果として我が国における課題）を浮かび上がらせることとしたい。

2. 使用した調査

2.1 我が国

環境省が 2004 年 6 月 4 日～7 月 5 日に実施した「環境にやさしいライフスタイル実態調査」¹⁾（以下「環境ライフスタイル調査」という。）の結果（2004 年 10 月 14 日公表）を用いた。同名の調査として、他の年度のものがあるが、公表されている最新のものであること及び後に述べる EU の調査と同じ年（2004 年）に実施されているものであることから、本稿では、この年度のものを使用する。

同調査は、郵送によるアンケート調査であり、対象者は、全国 100 地点で、20 歳以上の成人男女 3,000 人を層化 2 段無作為抽出法により抽出された。調査票の回収率は 42.2%であった。

なお、我が国の自治体が行った調査として、新潟県が 2005 年 9 月 30 日～10 月 14 日に実施した「新潟県の環境に関するアンケート調査」²⁾（以下「新潟県環境調査」という。）の結果も適宜参照する。（20 歳以上の男女個人 2,000 人、回収率 60.5%。）

表1 EU加盟国⁽⁶⁾

EU15 (~ の 15 国)		
ドイツ (DE) フランス (FR) イタリア (IT) ルクセンブルク (LU) ベルギー (BE) オランダ (NL)	欧州石炭・ 鉄鋼共同体 の原加盟国	1993 年 11 月 1 日 EU 発足当初の 加盟国
英国 (UK) アイルランド (IE) デンマーク (DK)	1973 年 1 月 1 日加盟	
ギリシャ (EL)	1981 年 1 月 1 日加盟	
スペイン (ES) ポルトガル (PT)	1986 年 1 月 1 日加盟	
オーストリア (AT) スウェーデン (SE) フィンランド (FI)	1995 年 1 月 1 日加盟	
NMS ((16)~(25)の 10 国)		
(16)エストニア (EE) (17)ラトビア (LV) (18)リトアニア (LT) (19)ポーランド (PL) (20)チェコ (CZ) (21)スロバキア (SK) (22)ハンガリー (HU) (23)スロベニア (SI) (24)マルタ (MT) (25)キプロス (CY)	2004 年 5 月 1 日加盟	

各国の前に付した数字は、図1に対応している。

2.2 欧州

EU が 2004 年 10 月 27 日 ~ 11 月 29 日に全加盟国を対象に実施した“The attitudes of European citizens towards environment”⁽³⁾(以下「EU 環境意識調査」という。)の結果(2005 年 4 月公表)を用いた。

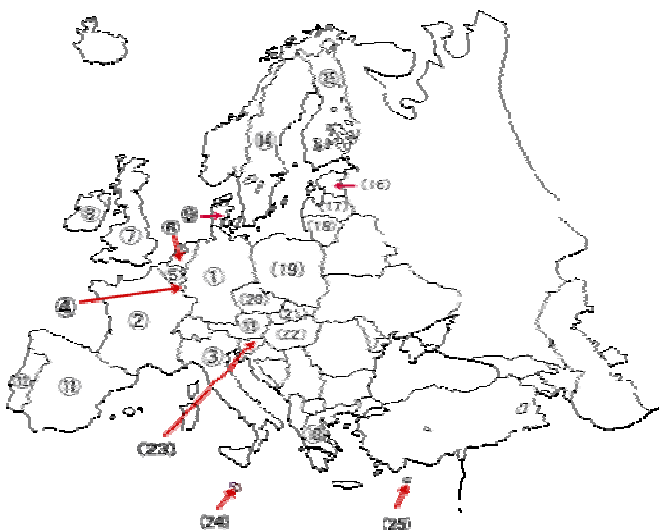
同調査は、EU が特定のテーマについて行う“Special Eurobarometer”の一つ(No. 217)として実施された。調査方法は、EU の通常の世論調査“Standard Eurobarometer”と同様に、各加盟国原則約 1,000 人規模(国によって一部増減がある。)の直接面接聴取法(15 歳以上)である。

EU 環境意識調査の場合、面接聴取対象人数は、合計 24,786 人(ドイツ 1,561 人、英国 1,312 人、キプロス 508 人、ルクセンブルク 506 人及びマルタ 500 人の他は、各国約 1,000 人。)であった。

なお、同調査においては、2002 年に実施した類似の調査⁽⁴⁾との比較を行うため、2002 年当時の加盟国(15 国)を「EU15」として、その後加盟した 10 か国の新加盟国を「NMS」として区別している。

参考のため、EU の加盟国(25 国)を示すと、図1及び表1のとおりである。

図1 EU加盟国の位置⁽⁵⁾



各国の数字は、表1参照。

3. 関心のある環境問題

環境情報に関する意識を見る前に、まず、環境に関する基本的な意識として、どのような環境問題に関心があるのか、我が国と EU の状況を見ておくことにする。

3.1 我が国

環境ライフスタイル調査においては、「あなたは、

現在どのような環境問題に関心がありますか。以下のなかで、関心のある環境問題を選んでをつけてください(いくつでも)。という質問が行われている。選択肢は、「地球温暖化」、「オゾン層の破壊」等 23 項目及び「その他」である。(具体的な質問内容については、「参考 A」参照。以下、本稿で取り上げる各質問について同じ。)

結果を見ると、我が国の国民にとって関心が高い環境問題は、地球温暖化(81.9%)、オゾン層破壊(59.7%)、廃棄物不法投棄(56.8%)、大気汚染(53.8%)、水質汚濁(49.5%)等であり、逆に、地盤沈下(9.6%)、黄砂(12.0%)、悪臭(15.1%)等への関心が低い(表 2)。

表 2 関心のある環境問題(日本)⁽⁷⁾

項 目	回答
地球温暖化	81.9%
オゾン層の破壊	59.7%
不法投棄など廃棄物の不適正な処理	56.8%
大気汚染	53.8%
水質汚濁	49.5%
リサイクル可能な資源の廃棄	47.8%
有害な化学物質による環境汚染	46.4%
世界的な森林の減少	46.3%
廃棄物などの最終処分場のひっ迫	41.3%
人々の生活の身近にある自然の減少	40.8%
海洋の汚染	36.4%
国内の手つかずの自然(原生林等)の減少	33.8%
酸性雨	33.5%
ヒートアイランド現象	33.3%
開発途上国の公害環境問題	31.6%
環境ホルモンの生物への影響	31.4%
野生生物や希少な動植物の減少や絶滅	29.9%
土壌汚染	26.8%
騒音・振動	23.9%
砂漠化	22.4%
悪臭	15.1%
黄砂	12.0%
地盤沈下	9.6%

なお、新潟県環境調査においても環境問題への関心度に関する質問があるが、地球温暖化、オゾン層の破壊等 17 項目及び「その他」の環境問題別(分類は環境ライフスタイル調査のものと同様)に、それぞれどの程度の関心を持っているか(「非常に関心がある」、「関心がある」、「あまり関心がない」、「関心がない」、「わからない」)を聞くものである。

各環境問題について「非常に関心がある」と「関心がある」を合計した割合を見ると、全国的な環境ライフスタイル調査と同様に地球温暖化(計 85.4%)が最も高くなっている。その他、リサイクル可能な資源の廃棄(計 75.2%)、オゾン層の破壊(計 72.5%)等、関心の高い環境問題は、環境ライフスタイル調査の結果と同様であった。

また、騒音・振動(計 49.0%)、悪臭(計 53.4%)、地盤沈下(計 53.8%)等への関心が比較的低いという傾向も同様であるが、ただ、野生生物や希少動植物の減少や絶滅(計 51.8%)への関心が地盤沈下や悪臭よりも低いのが全国調査の結果とは異なる。

3.2 欧州

一方、EU 環境意識調査においては、「以下のなかからあなたが心配している主な環境問題を 5 つ選んでください。」という質問がある。選択肢は、「気候変動」、「天然資源の枯渇」等 15 項目である。(具体的な質問内容については、「参考 B」参照。以下、本稿で取り上げる各質問について同じ。)

結果は表 3 のとおりである。EU においては、水質汚濁(47%)、人為災害(46%)、気候変動(45%)及び大気汚染(45%)の 4 項目がほぼ同程度に懸念度の高い問題であり、以下、日用品中の化学物質による健康影響(35%)、自然災害(31%)、増加する廃棄物(30%)と続く。一方、懸念度の低い項目は、騒音(10%)、消費行動(13%)等である。

これらは、EU 加盟国(25 か国)全体の結果であるが、例えば、関心が最も高い水質汚濁については、NMS(2004 年に加盟した 10 か国)では 55%、EU15(2002 年当時の加盟国 15 か国)では 46%と違いが見られる。また、EU15 に限って見ると、気候変動への関心が最も高く(47%)、NMS における関心度(34%)と大きな違いがある。

表3 心配な環境問題 (EU)⁽⁸⁾

項目	回答
水質汚濁 (海、河川、湖沼、地下水等)	47%
人為災害 (大規模油汚染、工場事故等)	46%
気候変動	45%
大気汚染	45%
日用品中の化学物質による健康影響	35%
自然災害 (地震、洪水等)	31%
増加する廃棄物	30%
農業公害 (殺虫剤、肥料等)	26%
天然資源の枯渇	26%
遺伝子組換え生物の利用	24%
生物多様性の減少 (種の絶滅等)	23%
都市問題 (交通渋滞、公害、緑地不足等)	17%
交通の変化 (車・道路の増加、航空機の増加等)	14%
消費行動	13%
騒音	10%

3.3 比較

我が国の環境ライフスタイル調査においては、どのような環境問題について「関心があるか」を問うているのに対し、EU 環境意識調査の質問は、どのような環境問題について「心配しているか (worry about)」であり、厳密には同じ内容ではないものの、一般には後者の回答も「関心度」の高さを示していると考えられることから、これらと比較してみる。

我が国においては地球温暖化への関心が圧倒的に高い。欧州においても気候変動に関する関心は比較的高いほうであるが、水質汚濁及び人為災害よりも低く、我が国の状況とは異なる。

ただし、先に述べたとおり、EU15 に限って見ると、気候変動への関心が最も高く、国別では、スウェーデン (68%)、ルクセンブルク (58%)、ドイツ (57%)、オランダ (53%) 及びオーストリア (48%) で、気候変動への関心度が各国内で 1 位となっている。

一方、騒音に対する関心は、我が国においても EU においても比較的低い。

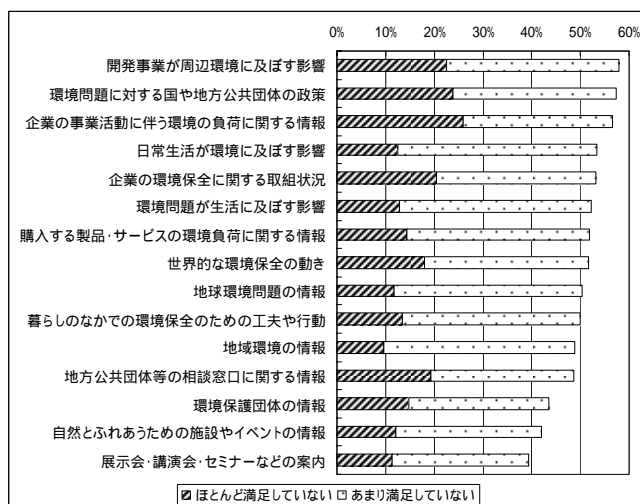
4 環境情報に関する満足度

4.1 我が国

環境ライフスタイル調査においては、「以下のような環境問題に関して、得られる情報の量・質にどの程度満足していますか。」という質問がある。選択肢は、「地域環境の情報」、「地球環境問題の情報」、「環境問題が生活に及ぼす影響」、「企業の環境保全に関する取組状況」等 15 項目であり、それぞれについて「十分満足している」、「まあ満足している」、「あまり満足していない」、「ほとんど満足していない」、「わからない」から選択させている。

後述する EU 調査では「不足している情報」を聞いているため、それとの比較のため、「ほとんど満足していない」又は「あまり満足していない」と回答した者の合計の割合を見ると、図 2 のとおりであり、開発事業が周辺環境に及ぼす影響 (計 57.9%)、環境問題に対する国や地方公共団体の政策 (計 57.3%)、企業の事業活動に伴う環境の負荷に関する情報 (計 57.9%)、日常生活が環境に及ぼす影響 (計 57.9%)、企業の環境保全に関する取組状況 (計 57.9%)、環境問題が生活に及ぼす影響 (計 57.9%)、購入する製品・サービスの環境負荷に関する情報 (計 57.9%)、世界的な環境保全の動き (計 57.9%)、地球環境問題の情報 (計 57.9%)、暮らしのなかでの環境保全のための工夫や行動 (計 57.9%)、地域環境の情報 (計 57.9%)、地方公共団体等の相談窓口に関する情報 (計 57.9%)、環境保護団体の情報 (計 57.9%)、自然とふれあうための施設やイベントの情報 (計 57.9%)、展示会・講演会・セミナーなどの案内 (計 57.9%) 等について満足度が低いという結果が得られている。

図 2 満足していない環境情報の種類 (日本)⁽⁷⁾



展示会・講演会・セミナーなどの案内 (計 39.3%) 及び自然とふれあうための施設やイベントについての情報 (計 42.1%) は、「不満」の少ない情報であるが、一方で、「十分満足している」及び「あまり満足している」という割合も特に高いというわけではな

く(それぞれ計 13.2%、計 16.5%)「わからない」(それぞれ 24.9%、19.8%) のが実情である。

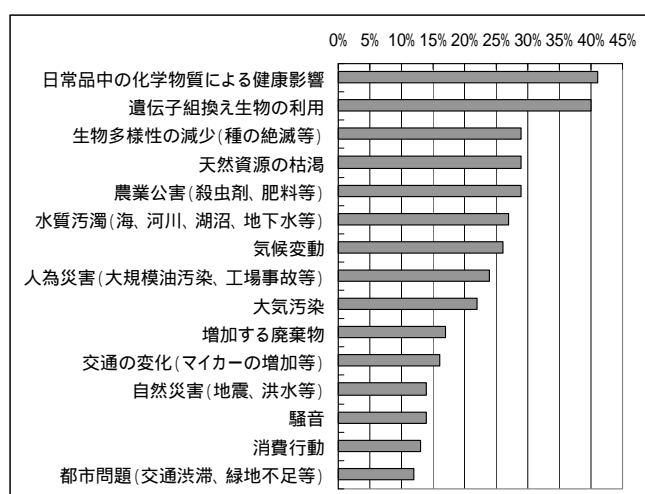
なお、「十分満足している」及び「あまり満足している」という割合が高いものも、地域環境の情報(計 21.7%)、地球環境問題の情報(計 20.0%)、環境問題が生活に及ぼす影響(計 18.1%) 等である。

4.2 欧州

EU 環境意識調査においては、「情報が不足していると感じる主な環境問題を 5 つ選んでください。」という質問がある。選択肢は、先の「心配している環境問題」の質問と同じ 15 項目である。

この結果は図 3 に示すとおりであり、不足感が大きいのは、日用品中の化学物質による健康影響(41%)及び農業における遺伝子組換え生物の使用(40%)に関する情報である。(続いて、生物多様性の減少(29%)、天然資源の枯渇(29%)等。)

図 3 情報が不足している環境問題 (EU) ⁽⁸⁾



4.3 比較

EU 環境意識調査は、環境問題の種類(大気汚染、気候変動等)ごとに、それらに関する情報が不足していると感じるかどうかを聞くものである。このため、情報の種類(企業の環境保全に関する取組状況、世界的な環境保全の動き等)ごとに得られる情報の満足度を聞く我が国の環境ライフスタイル調査の結果との直接的な比較はできない。

ただし、EU において不足との回答が目立つ「日

常品中の化学物質による健康影響に関する情報」及び「農業における遺伝子組換え生物の使用に関する情報」は、日常的に使用・消費する製品・作物の環境負荷という点で、我が国の環境ライフスタイル調査における「購入する製品・サービスの環境負荷に関する情報」に通じるものがある。また、環境ライフスタイル調査の「地球環境問題の情報」の主要なものは、代表的な地球環境問題である「気候変動」(EU 環境意識調査)に関する情報と考えられる。

このため、これらについて我が国及び欧州の比較を行うと表 4 のとおりとなる。地球環境問題(気候変動)に関する情報と比べると、我が国においては、製品やサービスの環境負荷に関する情報は同程度の不満度であるのに対して、欧州においては、製品や作物の環境影響に関する情報に対する不足感が強いといえる。

表 4 環境情報に関する満足度の比較 ⁽⁹⁾

	日本 (満足していない情報)	欧州 (不足している情報)
購入する製品・サービスの環境負荷に関する情報	51.9% = ‘ほとんど’ 14.3% + ‘あまり’ 37.6%	日用品中の化学物質による健康影響に関する情報 41% 農業における遺伝子組換え生物の使用に関する情報 40%
地球環境問題の情報	50.4% = ‘ほとんど’ 11.8% + ‘あまり’ 38.6%	気候変動に関する情報 26%

5 環境情報の入手方法

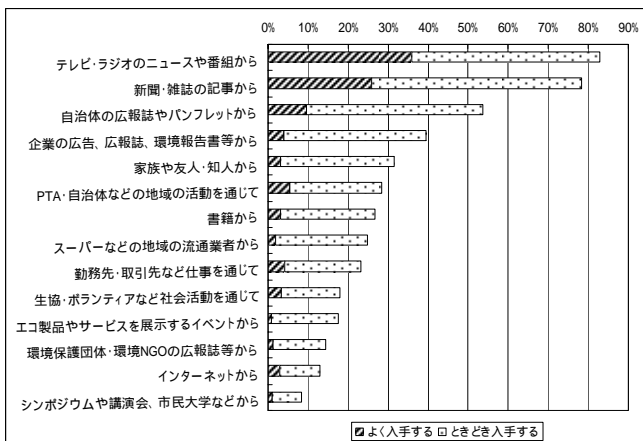
5.1 我が国

環境ライフスタイル調査には、「あなたは、環境問題に関する知識や環境保全のための方法などに関する情報を、以下からどの程度入手していますか。あなたの状況に最も近いところを一つつけてください(それぞれを一つ)。」という質問がある。選択肢は、「書籍から」、「新聞・雑誌の記事から」等 14 項

目及び「その他」であり、それぞれ「よく入手する」、「ときどき入手する」、「あまり入手しない」及び「全く入手しない」から選択させている。

このうち「よく入手する」及び「ときどき入手する」と回答した者の合計の割合を見ると図4のとおりであり、テレビ・ラジオのニュースや番組（計83.0%）及び新聞・雑誌の記事（計78.3%）の利用度が高く、自治体の広報誌・パンフレット（計53.6%）等が続く。一方、シンポジウムや講演会、市民大学などから（計8.4%）、インターネットから（計13.0%）等の利用が少ない。

図4 環境情報の入手経路（日本）⁽⁷⁾



5.2 欧州

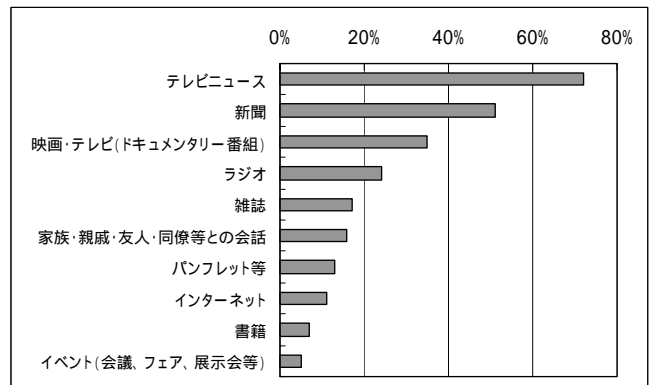
EU 環境意識調査には、「以下のなかから、環境に関する情報を入手する際の主な情報源を3つ選んでください。」という質問がある。選択肢は、「新聞」、「雑誌」、「テレビニュース」等10項目の他、「環境問題には関心がない」及び「その他」である。

結果は図5のとおりであり、テレビニュース（72%）が圧倒的に多く、新聞（51%）、映画・テレビ（ドキュメンタリー番組）（35%）、ラジオ（24%）と続く。逆に利用が少ない情報源は、イベント（5%）、書籍（7%）、インターネット（11%）等である。

こうした傾向については、EU15とNMSとの間に大きな違いはなかった。

また、環境情報の情報源としてテレビニュースという回答が最も多かったのは、全てのEU加盟国において共通であった。

図5 環境情報の情報源（EU）⁽⁸⁾



5.3 比較

環境情報の入手先としては、我が国においてもEUにおいても、テレビや新聞が中心となっており、インターネットの利用は比較的少ないという結果になっている。

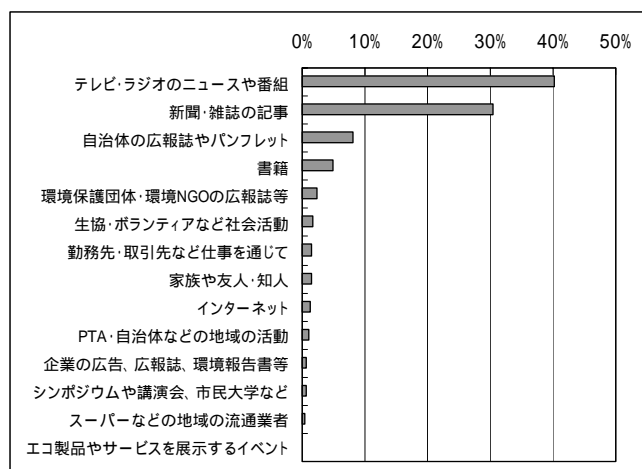
6. 信頼している情報源

6.1 我が国

環境ライフスタイル調査の質問には、「あなたは、環境問題に関する知識や環境保全のための方法などに関する情報の入手先として、枠内にあるものの中でどれを最も信頼していますか。また、2番目に信頼しているのはどれですか。それぞれ1つずつ番号を記入してください。」というものがある。選択肢は「書籍」、「新聞・雑誌の記事」、「テレビ・ラジオのニュースや番組」、「家族や友人・知人」等14項目である。

その結果は図6のとおりであり、信頼度が高い情報源としては、テレビ・ラジオのニュースや番組（40.3%）及び新聞・雑誌の記事（30.5%）と回答する者が群を抜いて多かった。なお、2番目に信頼している情報源も、新聞・雑誌の記事（31.0%）とテレビ・ラジオのニュースや番組（27.4%）の二つが上位を占める。逆に、エコ製品やサービスを展示するイベント（0.2%）、スーパーマーケットなど地域の流通業者（0.4%）、シンポジウムや講演会、市民大学など（0.6%）、企業の広告、広報誌、パンフレット、環境報告書（0.7%）等への信頼度が低い。

図6 環境情報の情報源への信頼性(日本)⁽⁷⁾

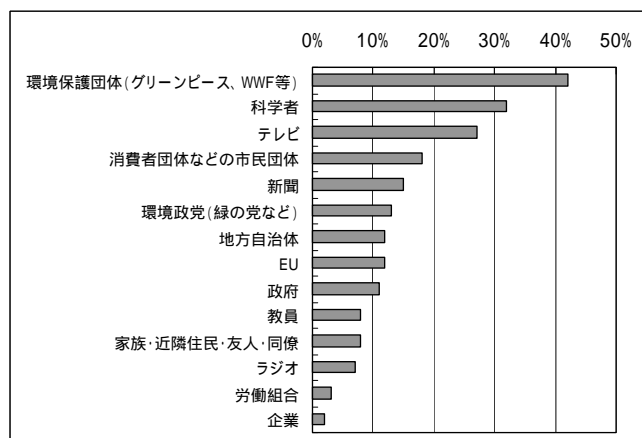


6.2 欧州

EU 環境意識調査の質問は、「環境問題について誰(何)を最も信頼しますか。以下の中から最大3つ選択してください。」である。選択肢は、「新聞」、「雑誌」、「テレビニュース」等 14 の情報源の他、「誰(何)も信頼していない」及び「その他」である。

図7にその結果を示す。環境保護団体(42%)への信頼度が最も高く、以下、科学者(32%)、テレビ(27%)、消費者協会・市民団体(23%)、新聞(15%)の順になっている。逆に、企業(2%)、労働組合(3%)、ラジオ(7%)等の信頼度が低い。

図7 環境問題について最も信頼する情報源(EU)⁽⁸⁾



6.3 比較

我が国では、テレビ・ラジオや新聞・雑誌への信

頼度が圧倒的に高いのに対して、EU では環境保護団体や科学者への信頼度がテレビや新聞への信頼度よりも高いのが大きな特徴となっている。

ただし、EU15 について 2002 年に行われた調査の結果との比較を行うと、環境保護団体への信頼度は減少し(-6 パーセントポイント)、テレビや新聞への信頼度が増加している(それぞれ+8 パーセントポイント、+6 パーセントポイント)。

7. 結論

我が国における環境情報のあり方を検討するための基礎的な知見として、環境情報への満足度等について、既存調査における類似質問の結果を用いて、我が国とヨーロッパ(EU)との比較を試みた。

それぞれ独立に行われた調査であるため直接的な比較はできないものの、環境情報の主要な情報源が両者ともテレビであること、しかしながら、情報源の信頼度という点では我が国の多くの者がテレビや新聞を信頼しているのに対して EU では環境保護団体や科学者が信頼されているという違いが明らかになった。

この結果から、環境情報の提供に当たっては、一般にはテレビを主要な手段と位置付ける必要があるといえる。ただし、テレビにより提供できる情報の内容や量には自ずと制約があることから、当然ながら、目的に応じて手段を使い分けることになるであろう。どのような情報をどのような手段で提供するのか、今後の研究課題の一つとしたい。

環境情報の情報源に対する信頼度が日欧で異なる点については、その要因として、メディア・リテラシーの差、環境保護団体や科学者に対する社会的な地位や認知度の違いなどが考えられる。この点についても、今後、環境分野の情報のみならず情報全般に対して同様の傾向にあるのかも含めて分析をし、その結果を、信頼され活用される環境情報のあり方の検討に活用したい。

<注>

(1) 環境省『環境にやさしいライフスタイル実態調査 - 国民調査の結果 (平成 15 年度調査) - 』、2004 年 10 月。

(2) 新潟県『新潟県の環境に関するアンケート調査結果』、2006 年 3 月。

(3) European Commission “The attitudes of European citizens towards environment”, April 2005.

(4) The European Opinion Research Group “The attitudes of Europeans towards the environment”, December 2002.

(5) 入稻福智平成国際大学法学部助教授ホームページ (<http://www.eu-info.jp/law/en-map.html>) [2006 年 8 月]

(6) 外務省 (各国・地域情勢 - 欧州 - 欧州連合) ホームページ (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/map.html>) [2006 年 8 月] 及び上記(5)ホームページから筆者が作成。

(7) 図表は、上記(1)に基づき筆者が作成。

(8) 図表は、上記(3)に基づき筆者が作成。

(9) 上記(1)及び(3)に基づき筆者が作成。

【参考 A】「環境にやさしいライフスタイル実態調査 (平成 15 年度調査)」の質問項目 (抜粋)

2. 環境問題の関心についておうかがいします。
 問 2 あなたは、現在どのような環境問題に関心がありますか。以下のなかで、関心のある環境問題を選んで をつけてください (いくつでも)。

- 1 地球温暖化
- 2 オゾン層の破壊
- 3 酸性雨
- 4 黄砂
- 5 大気汚染
- 6 騒音・振動
- 7 悪臭
- 8 水質汚濁

- 9 土壌汚染
- 10 地盤沈下
- 11 海洋の汚染
- 12 リサイクル可能な資源の廃棄
- 13 不法投棄など廃棄物の不適正な処理
- 14 ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染
- 15 内分泌かく乱化学物質 (環境ホルモン) の生物への影響
- 16 国内の原生林や湿地帯などといった手つかずの自然の減少
- 17 人々の生活の身近にある自然の減少
- 18 野生生物や希少な動植物の減少や絶滅
- 19 世界的な森林の減少
- 20 砂漠化
- 21 開発途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害環境問題
- 22 廃棄物などの最終処分場のひっ迫
- 23 都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象
- 24 その他 (具体的に:)

7. 環境情報の接触状況についておうかがいします。
 問 7 以下のような環境問題に関する情報について、あなたはどの程度関心がありますか (問 7-1)。また、得られる情報の量・質にどの程度満足していますか (問 7-2) (1 から 15 について、問 7-1、問 7-2 のそれぞれに を 1 つ)。
 問 7-1 関心の高さに関して：
 ・大変関心がある
 ・やや関心がある
 ・あまり関心がない
 ・ほとんど関心がない
 問 7-2 情報の満足度に関して：
 ・十分満足している
 ・まあ満足している
 ・あまり満足していない
 ・ほとんど満足していない
 ・わからない

1. 地域環境の情報
2. 地球環境問題の情報
3. 環境問題が生活に及ぼす影響
4. 日常生活が環境に及ぼす影響
5. 開発事業が周辺環境に及ぼす影響
6. 環境問題に対する国や地方公共団体の政策
7. 企業の環境保全に関する取組状況
8. 企業の事業活動に伴う環境汚染物質、廃棄物などの環境の負荷に関する情報
9. 世界的な環境保全の動き

10. 暮らしのなかでの環境保全のための工夫や行動
11. 購入する製品・サービスの環境負荷に関する情報
12. 環境問題に困った場合の地方公共団体等の相談窓口に関する情報
13. 環境保護団体の情報
14. 展示会・講演会・セミナーなどの案内
15. 自然とふれあうための施設やイベントについての情報

8. 環境情報の入手経路についておうかがいします。
 問 8-1 あなたは、環境問題に関する知識や環境保全のための方法などに関する情報を、以下からどの程度入手していますか。あなたの状況に最も近いところに をつけてください (それぞれ を1つ)。

- ・よく入手する
- ・ときどき入手する
- ・あまり入手しない
- ・全く入手しない

1. 書籍から
2. 新聞・雑誌の記事から
3. テレビ・ラジオのニュースや番組から
4. 家族や友人・知人から
5. インターネットから
6. 勤務先・取引先など仕事を通じて
7. 企業の広告、広報誌、パンフレット、環境報告書から
8. スーパーマーケットなど地域の流通業者から
9. 自治体の広報誌やパンフレットから
10. P T A ・自治会などの地域の活動を通じて
11. シンポジウムや講演会、市民大学などから
12. 生協活動・ボランティア活動など社会活動を通じて
13. 環境保護団体・環境N G Oの広報誌やパンフレットから
14. エコ製品やサービスを展示するイベントから
15. その他

問 8-2 あなたは、環境問題に関する知識や環境保全のための方法などに関する情報の入手先として、枠内にあるものの中でどれを最も信頼していますか。また、2番目に信頼しているのはどれですか。それぞれ1つずつ番号を記入してください。

- ・最も信頼している情報源
- ・2番目に信頼している情報源

1. 書籍
2. 新聞・雑誌の記事
3. テレビ・ラジオのニュースや番組
4. 家族や友人・知人
5. インターネット

6. 勤務先・取引先など仕事を通じて
7. 企業の広告、広報誌、パンフレット、環境報告書
8. スーパーマーケットなど地域の流通業者
9. 自治体の広報誌やパンフレット
10. P T A ・自治会などの地域の活動
11. シンポジウムや講演会、市民大学など
12. 生協活動・ボランティア活動など社会活動
13. 環境保護団体・環境N G Oの広報誌やパンフレット
14. エコ製品やサービスを展示するイベント

【参考 B】EU 環境意識調査“The attitudes of European citizens towards environment” (Special Eurobarometer 217) の質問項目 (抜粋)

QD2
 From the following list, please list the five main environmental issues that you are worried about?
 (SHOW CARD - READ OUT - MAX. 5 ANSWERS)

1. Climate change
2. Loss in biodiversity (extinction of animal species, flora and fauna, etc.)
3. Natural disasters (earthquakes, floods, etc.)
4. Man made disasters (major oil spills or industrial accidents, etc.)
5. Water pollution (seas, rivers, lakes and underground sources)
6. Agricultural pollution (use of pesticides, fertilizers, etc.)
7. The use of genetically modified organisms in farming
8. The impact on our health of chemicals used in everyday products
9. Air pollution
10. Noise pollution
11. Urban problems (traffic jams, pollution, lack of green spaces, etc.)
12. Depletion of natural resources
13. Our consumption habits
14. Growing waste
15. Consequences of current transport modes (increased use of individual cars, motorways, increased air traffic, etc.)
16. None of these (SPONTANEOUS)
17. DK

QD4

From the following list, please tell me the five main issues about which you feel you lack information in particular?

(SHOW CARD - READ OUT – MAX.5 ANSWERS)

1. Climate change
2. Loss in biodiversity (extinction of animal species, flora and fauna, etc.)
3. Natural disasters (earthquakes, floods, etc.)
4. Man made disasters (major oil spills or industrial accidents, etc.)
5. Water pollution (seas, rivers, lakes and underground sources)
6. Agricultural pollution (use of pesticides, fertilizers, etc.)
7. The use of genetically modified organisms in farming
8. The impact on our health of chemicals used in everyday products
9. Air pollution
10. Noise pollution
11. Urban problems (traffic jams, pollution, lack of green spaces, etc.)
12. Depletion of natural resources
13. Our consumption habits
14. Growing waste
15. Consequences of current transport modes (increased use of individual cars, motorways, increased air traffic, etc.)
16. None of these (SPONTANEOUS)
17. DK

QD12

From the following list, which are your three main sources of information about the environment?

(ROTATION - SHOW CARD - READ OUT- MAX. 3 ANSWERS)

1. Newspapers
2. Magazines
3. Television news
4. The radio
5. Films and documentaries on television
6. Conversations with relatives/family/friends/neighbours/colleagues
7. Books
8. The Internet
9. Publications/Brochures/information and material
10. Events (conferences, fairs/exhibitions, festivals, etc.)
11. I am not interested in environment (SPONTANEOUS)
12. Other (SPONTANEOUS)
13. DK

QD13

From the following list, who do you trust most when it comes to environmental issues?

(ROTATION - SHOW CARD - READ OUT - MAX. 3 ANSWERS)

1. National government
2. Regional/local government
3. European Union
4. Companies
5. Trade unions
6. Political parties standing for environment (Greens, etc.)
7. Environmental protection associations (Green Peace, World Wildlife Fund, etc.)
8. Consumer associations and other citizens' organizations
9. Scientists
10. Teachers at school or university
11. Family/neighbours/friends/colleagues
12. Television
13. The radio
14. Newspapers
15. None of them (SPONTANEOUS)
16. Other (SPONTANEOUS)
17. DK

(Received : September 30, 2006)

(Issued in internet Edition : November 1, 2006)